



# にじのはし幼稚園 園だより

平成28年 2月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 新井智子



心地よいつながりの中で

園長 新井智子

1月下旬、穏やかな年始とは対照的な寒さが到来しました。一時インフルエンザが流行し、学年閉鎖が続きました。幼稚園内の子どもたちの声が少なく寂しく、改めて健康の有難さを感じました。ちょうど『にじっこ発表会』に向けての活動が進められており、十分に取組めない辛さを子どもたちも教員も味わいました。しかし、ここにきて子どもたちの底力が発揮されました。休んでいた遅れを取り戻そうと、自分の役以外に休んでいる友達の役を自分から買って出たり、大道具や小道具など、作れるものは作っておこうと動いたりする姿が見られました。特に5歳児の協力体制は万全でした。危機感を自分たちの問題として受け止めている様子が見られました。「〇〇ちゃんの方もやる」「〇〇ちゃんだったら、どうするだろう」と友達をイメージして動きを考えることもできるようになりました。相手が目の前にいなくても相手の気持ちや動きを想像できる学級のつながりを感じます。

3、4歳児にも、これまでの園生活の友達との関わりの中で、その子に合った思いを伝える術を獲得しているのか、心優しい関わりが見られます。3歳児は、誰か寂しそうにしていると、ずっと手を伸ばしてつないであげたり、水道で隣同士になった友達と顔を見合わせて笑ったり、気持ちを寄せあう姿が生活のあちらこちらで見られます。

4歳児は、もうすぐ年長になるという気持ちが強く、積極的な行動が目立ちます。先日の誕生会でも、司会を5歳児に教えてもらい、立派に行うことができました。そこでも、友達の司会ぶりをほめたり、立ち位置をアイコンタクトで教えたりする温かな友達とのつながりが垣間見え、さりげない伝え方に成長を感じます。

以前の話ですが、本園で行っている2時から4時半までの「にこにこクラブ」（異年齢合同サポート保育）で、このようなことがありました。片付けをして帰り支度をする時になって、担当の先生が職員室に相談にやってきました。「片付けをしようと声をかけたのですが、4歳児のAちゃんが部屋中いっぱい組み立てた積み木を、どうしても明日の朝まで残し学級の友達に見せたいと泣いているのです。粘り強く作っていたのでその思いもわかるのですが、その都度片付けることが約束になっていますし、明日の保育もありますし、どうしましょう」と困り果てていました。「でも、約束は約束ですね」と、先生は意を決し踵を返しました。でも、戻ったと思ったらすぐに職員室に引き返してきたのです。「園長先生！子どもたちってすごいですね。年長さんが片付けと声をかけて、さっさと片付けを始めたらしいのです。そして、自分のところが終わった人はまだの人を手伝うものだからと、その場にいた全員が部屋中に広がった積み木を私が戻るまでにあっという間に片付けていました！」残したいと言っていた子も5歳児の一言で納得し、一緒に片付けていたようです。同じ「にこにこクラブ」の仲間としてつながりがあるからこそ、5歳児の鶴の一声で、さっと子どもたちが動いたのです。子どもたちの社会に互助の気持ちがはぐくまれ秩序が生まれていることを感じます。

今年も幼稚園の研究テーマは、「人と心地よいつながりの中で、自分らしさを発揮する幼児 一人と関わる底力の育成」でした。子どもたちの社会に心地よいつながりがあり、一人一人が人と関わりの中で底力を発揮する嬉しい今日この頃です。

